

ドーナツを探して

仙北市長 門脇 光浩

令和2年の年始めにあたり、市民の皆さまに新年のごあいさつを申し上げます。今年も、皆さまが幸せや喜びを一つでも多く積み重ね、充実した時間を過ごせるよう、職員とともに最大の努力を傾注します。

昨年4月末、平成は幕を閉じました。デモクラシーと戦争、経済変動が象徴的だった大正・昭和から、経験のない少子高齢社会に突入した平成を経て、美しいハーモニー（トヨタ自動車社長の豊田章男さん談）の令和を迎えました。この言葉は、豊田章男さんが昨年の5月、彼の母校の米国バブソン大学で、卒業生に向けたスピーチの中に登場します。このスピーチはインターネットで広がり、世界中に大きな感動を与えました。少し紹介します。

「日本では新しい天皇が誕生する度、新しい時代が始まります。暦も

1から数え直します。令和は美しいハーモニーと言う意味です。日本では誰もが新しい時代を歩き始めています。可能性は無限大です。私は、母校の卒業生に、大切なことをお話しします。一人ひとりが、あなただけのドーナツを見つけて欲しいということです。私の留学生生活は勉強漬けで、周囲との交流もない毎日でした。しかし、そんな私をドーナツはハッピーにしてくれました。本当に美味しかった。人生に喜びを感じました。あなたたちも私のドーナツのように、何かを見つけてください。見つけた後、さらに多くの気づきが訪れます。私は友だちから頼られていたか、常に学んでいたか、劇的な変化を選ぶか、新しい挑戦をしているか……。どれも楽しい人生に必要な要素です」と。

このスピーチに、多くの勇気をいただきました。民間企業も地方自治

体も市民も、現状に立ち止まっていたではダメです。今年は、進化のための変化を起こす一年です。大好きな故郷に住み続けることができるよう、また、第2の故郷に選んでいただけるよう、挑戦を続けなければいけません。持続可能な地域づくりを目指す特区の取り組みは、人口減少や高齢社会の対応に役立っています。企業誘致は複数件に対応中です。水耕栽培の植物工場はその姿が見えてきました。IT企業の進出で、起業を目指す方々のスタートアップ支援が叶い、また、働きたい方と就業先のマッチングを行う市独自の新たな仕組みも実現間近です。日本版DMOの本法人登録や、古民家・ホテルの進出にも期待を寄せています。SDGs未来都市の活動では、エネルギーや環境領域での取り組みが進みます。市内初の発電会社・仙北水力発電㈱が、市内で小水力発電所の開設に着手したり、市と連携する東北大学大学院の研究チームが、玉川で水素生成のプラント実験を本格化します。子育てや保育環境の再整備

などは、厳しい財政状況の中でも、

できる限りの対応を行います。病院の経営改善は、自己改善を強力に支援し、外部コンサルタントの具体的な提案なども実施します。農地の高度利用、担い手確保やほ場整備事業も継続して取り組みます。国道や新幹線の高速化など、今年は要望活動の山場です。市議会では議員連盟を発足させました。総合給食センターは4月から業務開始、12月には新角館庁舎が開庁予定です。一方で公共機関の閉鎖や縮小、解体などが続きます。中川小学校は統合し、田沢診療所は廃止となります。

今年は何事か400年、仙北市誕生15周年の年です。先人の築いた歴史や文化を伝え、同時に今を生きる世代にも満足感の高いまちづくりを探ります。市民の皆さまの元気な発言や行動が、仙北市の価値を高める力です。心から感謝を申し上げます。さらに、お一人おひとりが、あなただけのドーナツを見つける一年となりますように…。